

# 令和4年度宮城県歯と口腔の健康実態調査結果概要

## 1 目的

この調査は、県民の歯と口腔の健康実態と生活習慣や歯科保健行動との関係性等を把握し、「第2期宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画」の取組状況及び各目標の最終評価並びに次期計画策定に向けた見直しに係る基礎資料とし、今後の歯科保健施策の推進に資するために実施するもの。

## 2 実施主体 宮城県

## 3 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県全域
- (2) 対象者 対象地区に居住する20歳～84歳までの男女1,300人
- (3) 抽出方法 宮城県内に住民登録を行っている20歳から84歳までの住民について、5歳刻みの年齢ごとに各市町村から無作為抽出

## 4 調査方法

- ・口腔診査及び自記式質問調査
- ・県が対象者に調査票を郵送。対象者は歯科医療機関にて口腔診査を実施し、調査票を登録歯科医療機関に提出。

## 5 調査結果

### (1) 協力人数（協力率）

- 口腔診査 465人（35.8%）  
内訳〔構成割合〕 性別：男性190名〔40.9%〕、女性275名〔59.1%〕  
65歳以上の高齢者：194名〔41.7%〕
- 自記式質問調査 544人（41.8%）  
内訳〔構成割合〕 性別：男性229名〔42.1%〕、女性315名〔57.9%〕  
65歳以上の高齢者：204名〔37.5%〕

### (2) むし歯とその処置状況等について

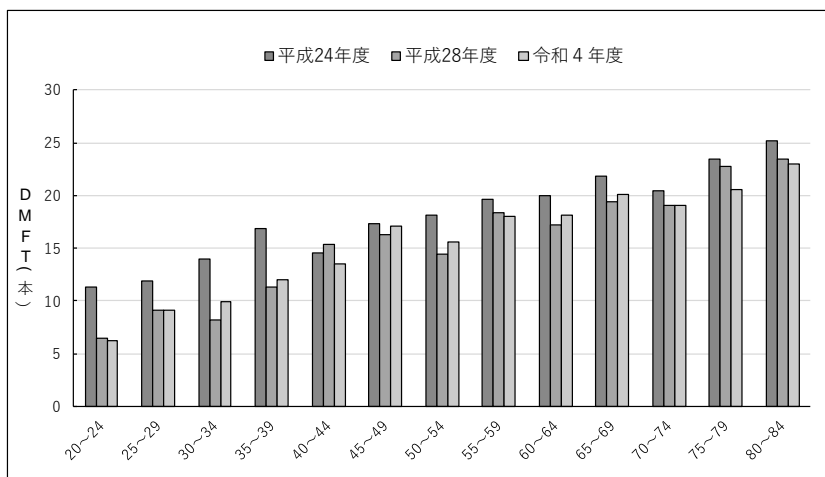
一人平均むし歯経験歯数（DMFT）は、20～24歳では6.2本、40～44歳では13.5本、60～64歳では18.2本、80～84歳では23.0本であり、前々回調査（平成24年度調査）、前回調査（平成28年度調査）と比較して、ほとんどの年齢階級において、新しい調査ほどDMFTが減少している傾向が観察された（図1）。

現在歯数は、20～24歳では29.0本、40～44歳では28.4本、60～64歳では25.7本、80～84歳では16.5本であった。これまでの調査結果を比較すると、20～50代においては現在歯数に明らかな変化は見られないが、60代以降では、新しい調査ほど現在歯数が多くなる傾向がみられた。（図2）。

未処置歯数は、20～24歳では1.4本、40～44歳では2.5本、60～64歳では1.2本、80～84歳では1.4本であり、前回までの調査と比較して明らかな増減の傾向はみられなかった（図3）。

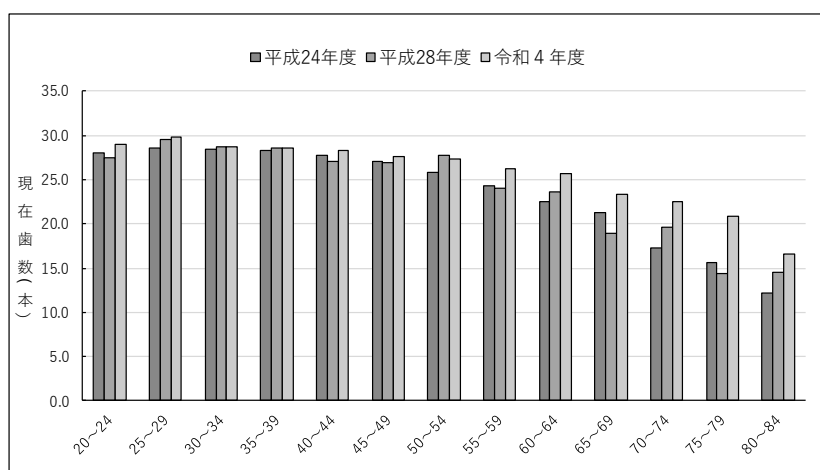
なお、80歳で現在歯が20本以上の8020達成者は、80～84歳の年齢階級では47.9%であった。60歳で現在歯が24本以上の6024達成者は、60～64歳の年齢階級では78.8%であった。

図1 年齢階級ごとの一人平均むし歯経験歯数（DMFT）



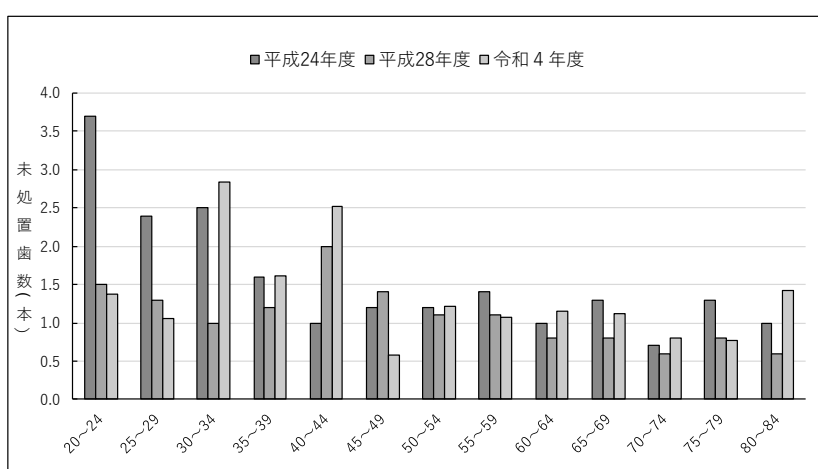
年齢階級 (歳)	平成24年度 (本)	平成28年度 (本)	令和4年度 (本)
20~24	11.3	6.5	6.2
25~29	11.9	9.1	9.2
30~34	14	8.2	9.9
35~39	16.9	11.3	12.0
40~44	14.6	15.4	13.5
45~49	17.3	16.3	17.1
50~54	18.1	14.4	15.5
55~59	19.6	18.4	18.1
60~64	20	17.2	18.2
65~69	21.8	19.4	20.1
70~74	20.4	19.1	19.1
75~79	23.5	22.8	20.6
80~84	25.2	23.5	23.0
85~	27.6	-	-
総数	18.5	17.8	16.8

年齢階級ごとの現在歯数平均値



年齢階級 (歳)	平成24年度 (本)	平成28年度 (本)	令和4年度 (本)
20~24	28.1	27.5	29.0
25~29	28.7	29.6	29.9
30~34	28.5	28.7	28.8
35~39	28.3	28.6	28.6
40~44	27.8	27.1	28.4
45~49	27.1	27.0	27.7
50~54	25.9	27.7	27.3
55~59	24.4	24.1	26.3
60~64	22.5	23.6	25.7
65~69	21.2	19.0	23.4
70~74	17.3	19.6	22.6
75~79	15.6	14.3	20.9
80~84	12.2	14.5	16.5
85~	8.4	-	-
総数	21.6	21.9	24.9

図3 年齢階級ごとの未処置歯数（未処置のむし歯本数）平均値

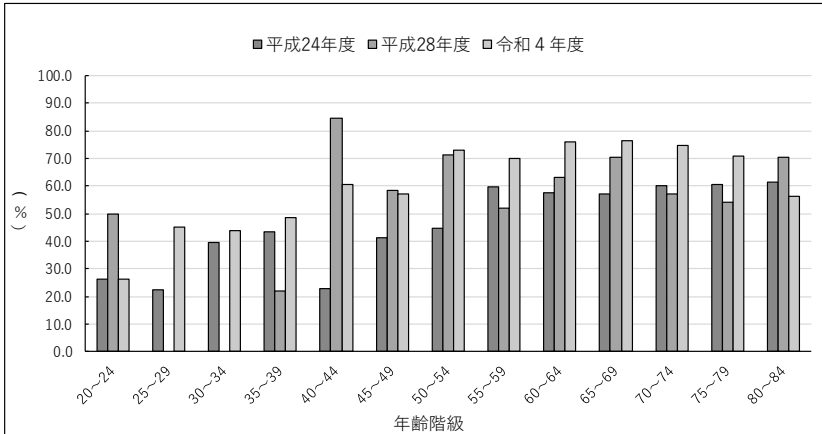


年齢階級 (歳)	平成24年度 (本)	平成28年度 (本)	令和4年度 (本)
20~24	3.7	1.5	1.4
25~29	2.4	1.3	1.1
30~34	2.5	1.0	2.8
35~39	1.6	1.2	1.6
40~44	1.0	2.0	2.5
45~49	1.2	1.4	0.6
50~54	1.2	1.1	1.2
55~59	1.4	1.1	1.1
60~64	1.0	0.8	1.2
65~69	1.3	0.8	1.1
70~74	0.7	0.6	0.8
75~79	1.3	0.8	0.8
80~84	1.0	0.6	1.4
85~	2.2	-	-
総数	1.5	0.9	1.3

### (3) 歯肉の状態について

歯周疾患を有する者（歯周ポケットが4mm以上の者）の割合は40代以降では50%を超えていた。前回までの調査と比較して、50代以降では調査が新しくなるにつれて歯周疾患を有する者の割合が増加する傾向が観察された。（図4）。

図4 年齢階級ごと歯周疾患を有する人の割合  
（歯周病（4mm以上の歯周ポケットを有する人）の割合）

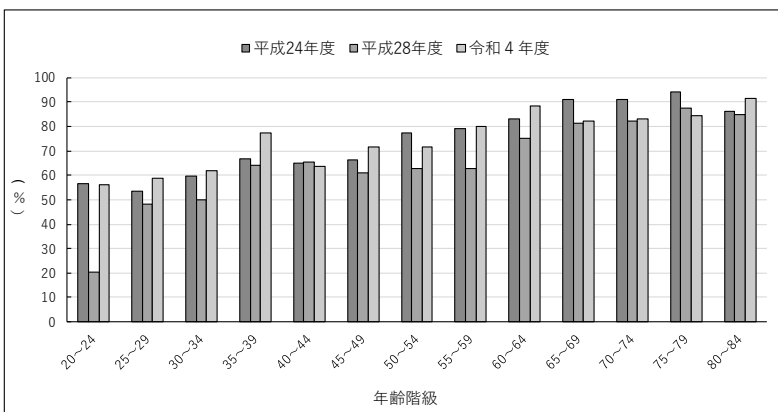


年齢階級 (歳)	平成24年度		平成28年度		令和4年度	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20~24	14	26.4	1	50.0	5	26.3
25~29	14	22.6	-	-	9	45.0
30~34	25	39.7	-	-	11	44.0
35~39	35	43.2	2	22.2	15	48.4
40~44	18	22.8	11	84.6	23	60.5
45~49	28	41.2	7	58.3	16	57.1
50~54	37	44.6	10	71.4	27	73.0
55~59	40	59.7	13	52.0	28	70.0
60~64	53	57.6	17	63.0	25	75.8
65~69	47	57.3	31	70.5	39	76.5
70~74	57	60.0	20	57.1	35	74.5
75~79	51	60.7	13	54.2	34	70.8
80~84	46	61.3	12	70.6	27	56.3
85~	1	20.0	-	-	-	-
該当数	466	47.1	137	57.1	294	64.9
総数	989		240		465	

### (4) 歯科保健行動について

「かかりつけ歯科医院を持っていますか」の問いには76.4%があると回答し、すべての年代で5割以上の方がかかりつけ歯科医を持っていた（図5）。また若年者よりも年配の方でかかりつけ歯科医を持つ割合が高かった。

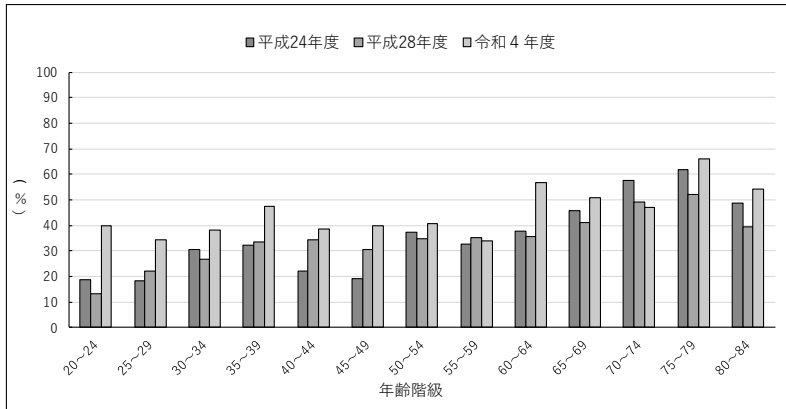
図5 年齢階級ごとかかりつけ歯科医を持つ人の割合



年齢階級 (歳)	平成24年度		平成28年度		令和4年度	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20~24	30	56.6	3	20.2	14	56.0
25~29	32	53.3	13	48.1	17	58.6
30~34	37	59.7	15	50.0	21	61.8
35~39	54	66.7	23	63.9	31	77.5
40~44	50	64.9	38	65.5	28	63.6
45~49	45	66.2	30	61.2	25	71.4
50~54	62	77.5	29	63.0	30	71.4
55~59	53	79.1	34	63.0	36	80.0
60~64	75	83.3	42	75.0	38	88.4
65~69	72	91.1	69	81.2	47	82.5
70~74	84	91.3	42	82.4	39	83.0
75~79	79	94.0	42	87.5	43	84.3
80~84	62	86.1	28	84.8	43	91.5
85~	5	100.0	-	-	-	-
該当数	740	76.3	408	69.4	412	76.4
総数	970		588		539	

「年に1回以上、歯科医院で健診を受けていますか」の問いに「はい」と回答した人は46.4%であり、若年者よりも高齢者で受けている者の割合が高かった。前回までの調査と比較すると、特に20~40代において大きく増加している傾向が観察された（図6）。

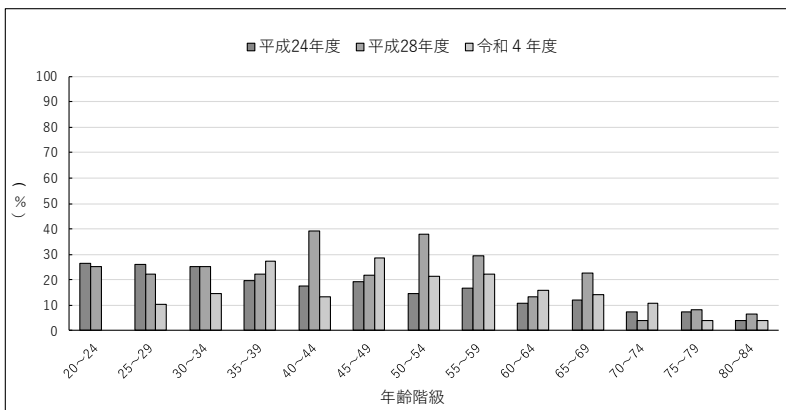
図6 年齢階級ごと年1回以上歯科健診を受けている人の割合



年齢階級 (歳)	平成24年度 (人) (%)	平成28年度 (人) (%)	令和4年度 (人) (%)
20~24	10 (18.9)	2 (13.3)	10 (40.0)
25~29	11 (18.3)	6 (22.2)	10 (34.5)
30~34	19 (30.6)	8 (26.7)	13 (38.2)
35~39	26 (32.1)	12 (33.3)	19 (47.5)
40~44	17 (22.1)	20 (34.5)	17 (38.6)
45~49	13 (19.1)	15 (30.6)	14 (40.0)
50~54	30 (37.5)	16 (34.8)	17 (40.5)
55~59	22 (32.8)	19 (35.2)	15 (34.1)
60~64	34 (37.8)	20 (35.7)	25 (56.8)
65~69	36 (45.6)	35 (41.2)	29 (50.9)
70~74	53 (57.6)	25 (49.0)	22 (46.8)
75~79	52 (61.9)	25 (52.1)	33 (66.0)
80~84	35 (48.6)	13 (39.4)	26 (54.2)
85~	4 (80.0)	-	-
該当数	362 (37.3)	216 (36.7)	250 (46.4)
総数	970	588	539

「たばこを吸いますか」の問いに「はい」と回答した人は14.4%であった。若年者及び高齢者における喫煙者の割合は低くなっている。(図7)。

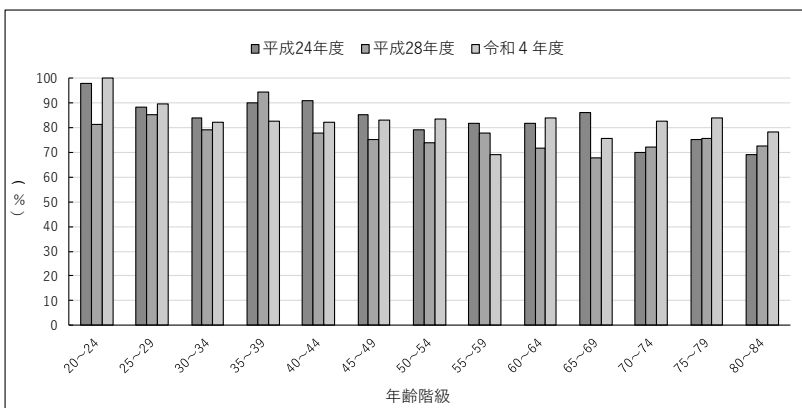
図7 年齢階級ごと喫煙者の割合



年齢階級 (歳)	平成24年度 (人) (%)	平成28年度 (人) (%)	令和4年度 (人) (%)
20~24	14 (26.4)	4 (25.0)	0 (0.0)
25~29	16 (26.2)	6 (22.2)	3 (10.3)
30~34	16 (25.4)	7 (25.0)	5 (14.7)
35~39	16 (19.8)	8 (22.2)	11 (27.5)
40~44	14 (17.7)	22 (39.3)	6 (13.3)
45~49	13 (19.1)	10 (21.7)	10 (28.6)
50~54	12 (14.6)	17 (37.8)	9 (21.4)
55~59	11 (16.7)	16 (29.6)	10 (22.2)
60~64	10 (11.0)	7 (13.2)	7 (15.9)
65~69	10 (12.2)	19 (22.6)	8 (14.0)
70~74	7 (7.5)	2 (4.0)	5 (10.6)
75~79	6 (7.3)	4 (8.3)	2 (3.9)
80~84	3 (4.1)	2 (6.7)	2 (4.2)
85~	0 (0.0)	-	-
該当数	148 (15.1)	124 (21.6)	78 (14.4)
総数	979	573	542

「喫煙はお口の健康に悪影響を及ぼすと思いますか」の問いには、81.8%が「思う」と回答し、その割合は若年者において高く、20~24歳では100.0%となっている。(図8)。

図8 年齢階級ごと喫煙が口の健康に悪影響を及ぼすと思う人の割合

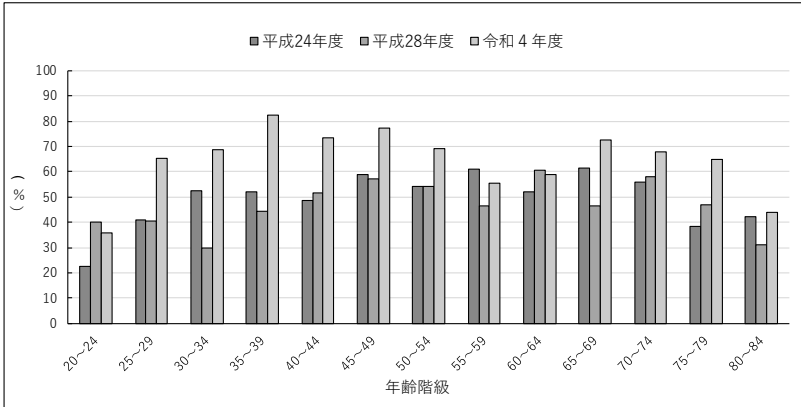


年齢階級 (歳)	平成24年度 (人) (%)	平成28年度 (人) (%)	令和4年度 (人) (%)
20~24	52 (98.1)	13 (81.3)	25 (100.0)
25~29	54 (88.5)	23 (85.2)	26 (89.7)
30~34	53 (84.1)	23 (79.3)	28 (82.4)
35~39	72 (90.0)	33 (94.3)	33 (82.5)
40~44	70 (90.9)	45 (77.6)	37 (82.2)
45~49	57 (85.1)	36 (75.0)	29 (82.9)
50~54	64 (79.0)	34 (73.9)	35 (83.3)
55~59	54 (81.8)	42 (77.8)	31 (68.9)
60~64	72 (81.8)	41 (71.9)	37 (84.1)
65~69	68 (86.1)	57 (67.9)	43 (75.4)
70~74	61 (70.1)	36 (72.0)	38 (82.6)
75~79	57 (75.0)	34 (75.6)	42 (84.0)
80~84	47 (69.1)	21 (72.4)	36 (78.3)
85~	3 (75.0)	-	-
該当数	784 (82.5)	438 (75.8)	440 (81.8)
総数	950	578	538

「デンタルフロスや歯間ブラシを使っていますか」の問いには、64.9%が「使っている」と回答し、ほとんどの年齢階級において過去の調査と比べて増加傾向にあった（図9）。

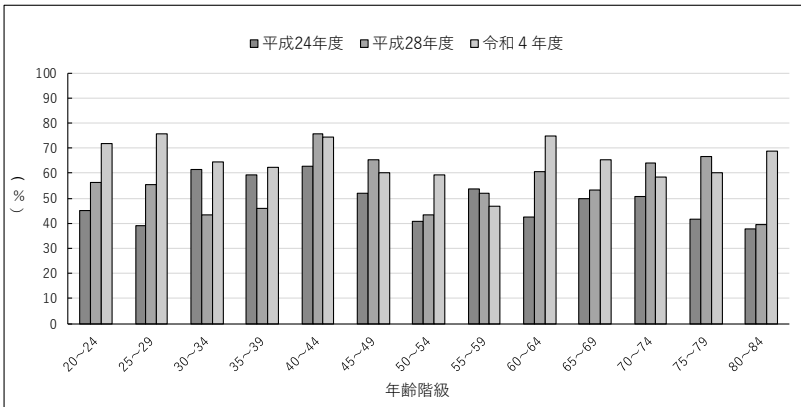
「使用している歯磨き剤はフッ素が入っているものですか」の問いには、「入っている」と答えた者は64.4%であり、前回までの調査と比較して、ほとんどの年齢階級において割合が増加傾向にあった。（図10）。歯磨剤を使っていない者は、4.3%存在した（図11）。

図9 年齢階級ごと歯間清掃器具（デンタルフロスや歯間ブラシ）を使っている人の割合



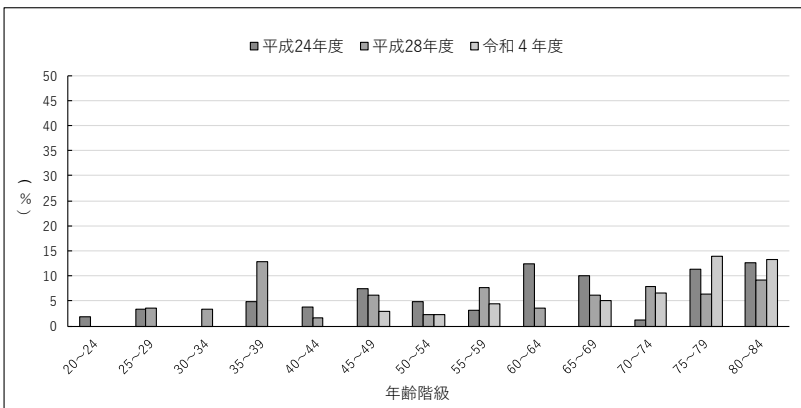
年齢階級 (歳)	平成24年度 (人)	平成24年度 (%)	平成28年度 (人)	平成28年度 (%)	令和4年度 (人)	令和4年度 (%)
20~24	12	22.6	6	40.0	9	36.0
25~29	25	41.0	11	40.7	19	65.5
30~34	33	52.4	9	30.0	24	68.6
35~39	42	51.9	16	44.4	33	82.5
40~44	38	48.7	30	51.7	33	73.3
45~49	40	58.8	28	57.1	27	77.1
50~54	45	54.2	25	54.3	29	69.1
55~59	41	61.2	25	46.3	25	55.6
60~64	48	52.2	34	60.7	26	59.1
65~69	49	61.3	40	46.5	42	72.4
70~74	51	56.0	29	58.0	32	68.1
75~79	31	38.3	22	46.8	33	64.7
80~84	30	42.3	10	31.3	21	43.8
85~	2	40.0	-	-	-	-
該当数	487	50	285	48.6	353	64.9
総数	974		586		544	

図10 年齢階級ごとフッ化物添加歯磨剤を使っている人の割合



年齢階級 (歳)	平成24年度 (人)	平成24年度 (%)	平成28年度 (人)	平成28年度 (%)	令和4年度 (人)	令和4年度 (%)
20~24	24	45.3	9	56.3	18	72.0
25~29	23	39.0	15	55.6	22	75.9
30~34	38	61.3	13	43.3	22	64.7
35~39	48	59.3	18	46.2	25	62.5
40~44	49	62.8	44	75.9	32	74.4
45~49	35	52.2	32	65.3	21	60.0
50~54	33	40.7	20	43.5	25	59.5
55~59	35	53.8	27	51.9	21	46.7
60~64	38	42.7	34	60.7	33	75.0
65~69	40	50.0	43	53.1	38	65.5
70~74	45	50.6	32	64.0	27	58.7
75~79	33	41.8	32	66.7	30	60.0
80~84	27	38.0	13	39.4	31	68.9
85~	-	-	-	-	-	-
該当数	468	48.8	332	56.8	345	64.4
総数	959		585		536	

図11 歯磨剤を使用していない人の割合

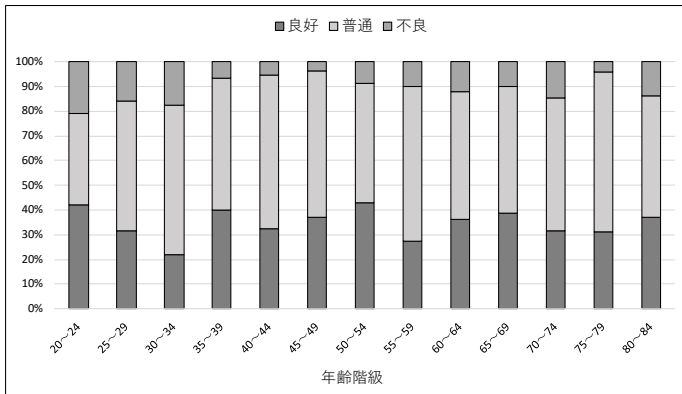


年齢階級 (歳)	平成24年度 (人)	平成24年度 (%)	平成28年度 (人)	平成28年度 (%)	令和4年度 (人)	令和4年度 (%)
20~24	1	1.9	-	-	-	-
25~29	2	3.4	1	3.7	-	-
30~34	-	-	1	3.3	-	-
35~39	4	4.9	5	12.8	-	-
40~44	3	3.8	1	1.7	-	-
45~49	5	7.5	3	6.1	1	2.9
50~54	4	4.9	1	2.2	1	2.4
55~59	2	3.1	4	7.7	2	4.4
60~64	11	12.4	2	3.6	-	-
65~69	8	10.0	5	6.2	3	5.2
70~74	10	1.2	4	8.0	3	6.5
75~79	9	11.4	3	6.3	7	14.0
80~84	9	12.7	3	9.1	6	13.3
85~	2	40.0	-	-	-	-
該当数	70	7.3	33	5.6	23	4.3
総数	959		585		536	

### (5) 口腔内診査所見について

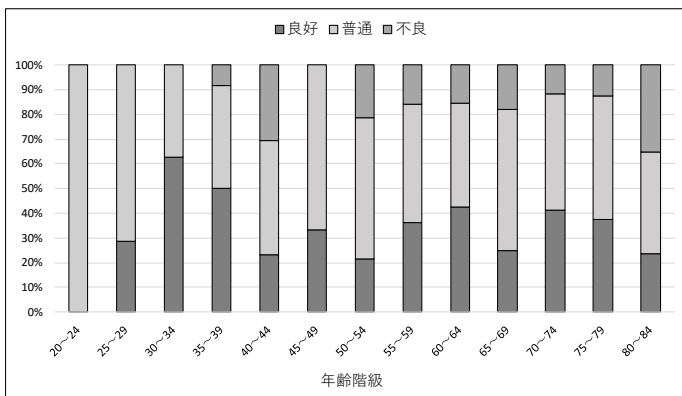
診査項目の口腔清掃状態では、「良好」が34.7%、「普通」が55.0%、「不良」10.4%であった。前回調査と比較すると「良好」が0.7ポイント増加し、「不良」は5.1ポイント減少している（図12，図13，図14）。

図12 年齢階級ごとの口腔清掃状態（令和4年度）



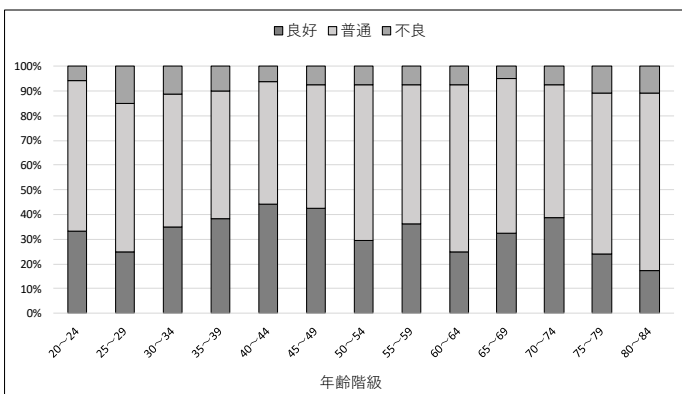
年齢階級 (歳)	良好		普通		不良		
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
20~24	8	42.1	7	36.8	4	21.1	
25~29	6	31.6	10	52.6	3	15.8	
30~34	5	21.7	14	60.9	4	17.4	
35~39	12	40.0	16	53.3	2	6.7	
40~44	12	32.4	23	62.2	2	5.4	
45~49	10	37.0	16	59.3	1	3.7	
50~54	15	42.9	17	48.6	3	8.6	
55~59	11	27.5	25	62.5	4	10.0	
60~64	12	36.4	17	51.5	4	12.1	
65~69	19	38.8	25	51.0	5	10.2	
70~74	13	31.7	22	53.7	6	14.6	
75~79	15	31.3	31	64.6	2	4.2	
80~84	16	37.2	21	48.8	6	14.0	
85~	-	-	-	-	-	-	
計	444	154	34.7	244	55.0	46	10.4

図13 年齢階級ごとの口腔清掃状態（平成28年度）



年齢階級 (歳)	良好		普通		不良		
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
20~24	0	0.0	2	100.0	0	0.0	
25~29	2	28.6	5	71.4	0	0.0	
30~34	5	62.5	3	37.5	0	0.0	
35~39	6	50.0	5	41.7	1	8.3	
40~44	3	23.1	6	46.2	4	30.8	
45~49	4	33.3	8	66.7	0	0.0	
50~54	3	21.4	8	57.1	3	21.4	
55~59	9	36.0	12	48.0	4	16.0	
60~64	11	42.3	11	42.3	4	15.4	
65~69	11	25.0	25	56.8	8	18.2	
70~74	14	41.2	16	47.1	4	11.8	
75~79	9	37.5	12	50.0	3	12.5	
80~84	4	23.5	7	41.2	6	35.3	
85~	-	-	-	-	-	-	
計	238	81	34.0	120	50.4	37	15.5

図14 年齢階級ごとの口腔清掃状態（平成24年度）

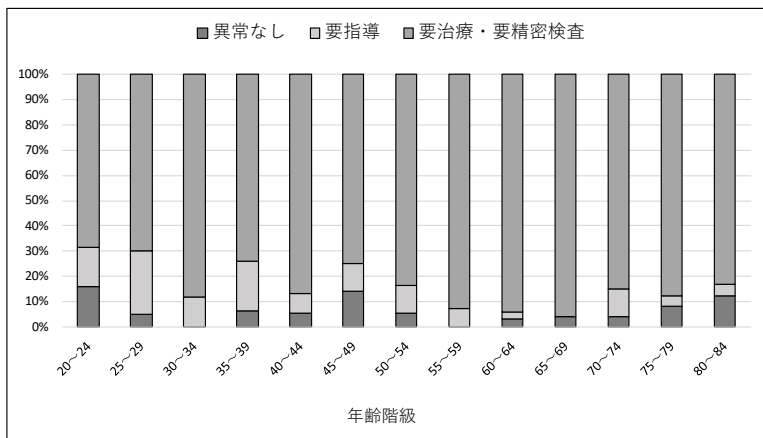


年齢階級 (歳)	良好		普通		不良		
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
20~24	17	33.3	31	60.8	3	5.9	
25~29	15	25.0	36	60.0	9	15.0	
30~34	22	34.9	34	54.0	7	11.1	
35~39	31	38.3	42	51.9	8	9.9	
40~44	35	44.3	39	49.4	5	6.3	
45~49	29	42.6	34	50.0	5	7.4	
50~54	24	29.3	52	63.4	6	7.3	
55~59	24	36.4	37	56.1	5	7.6	
60~64	23	25.0	62	67.4	7	7.6	
65~69	26	32.5	50	62.5	4	5.0	
70~74	36	38.7	50	53.8	7	7.5	
75~79	20	24.1	54	65.1	9	10.8	
80~84	13	17.3	54	72.0	8	10.7	
85~	2	40.0	2	40.0	1	20.0	
計	978	317	32.4	577	59.0	84	8.6

健康判定区分では、「要治療・要精密検査」が85.2%、「要指導」が8.6%、「異常なし」が6.2%であり、前回と比較すると「要治療・要精密検査」が7ポイント増加した（図15，図16，図17）。

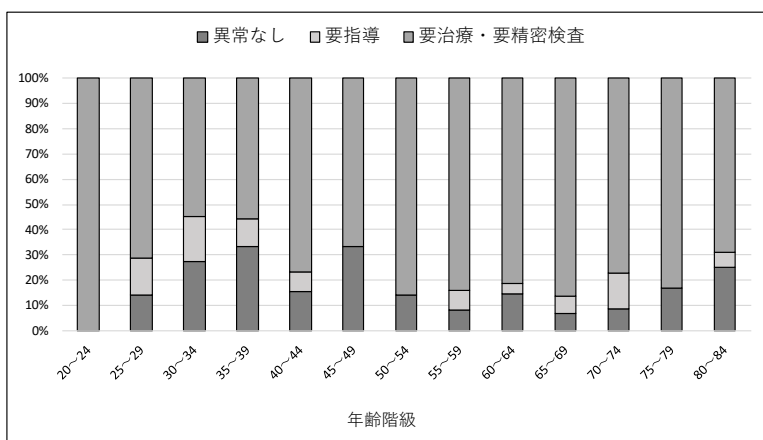
「要治療・要精密検査」の項目の内容は、「むし歯」が43.2%、「欠損歯あり」が29.3%、「歯周病」が72.7%、「その他」が48.2%であった（図18）。

図15 健康区分判定〔令和4年度〕



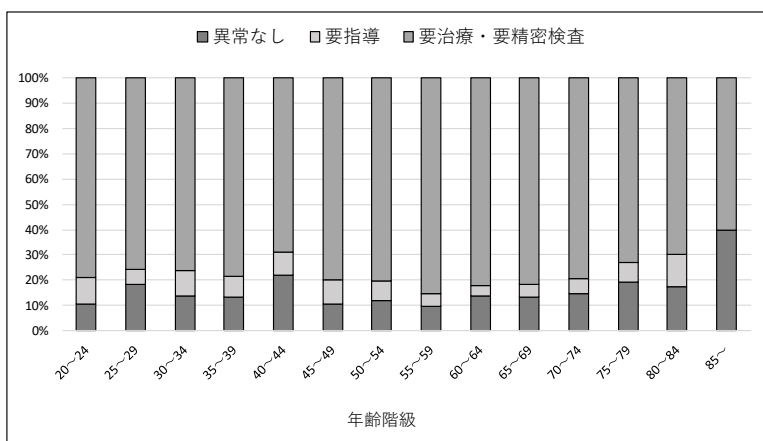
年齢階級 (歳)	異常なし		要指導		要治療・要精密検査	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20~24	3	15.8	3	15.8	13	68.4
25~29	1	5.0	5	25.0	14	70.0
30~34	0	0.0	3	12.0	22	88.0
35~39	2	6.5	6	19.4	23	74.2
40~44	2	5.3	3	7.9	33	86.8
45~49	4	14.3	3	10.7	21	75.0
50~54	2	5.4	4	10.8	31	83.8
55~59	0	0.0	3	7.5	37	92.5
60~64	1	3.0	1	3.0	31	93.9
65~69	2	3.9	0	0.0	49	96.1
70~74	2	4.3	5	10.6	40	85.1
75~79	4	8.3	2	4.2	42	87.5
80~84	6	12.5	2	4.2	40	83.3
85~	-	-	-	-	-	-
全体	29	6.2	40	8.6	396	85.2

図16 健康区分判定〔平成27年度〕



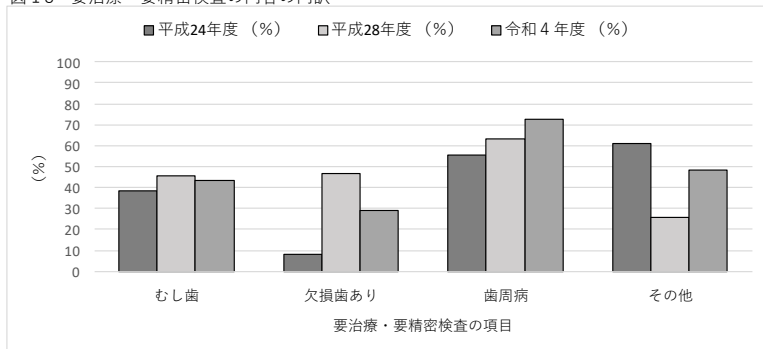
年齢階級 (歳)	異常なし		要指導		要治療・要精密検査	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20~24	0	0.0	0	0.0	2	100.0
25~29	1	14.3	1	14.3	5	71.4
30~34	3	27.3	2	18.2	6	54.5
35~39	3	33.3	1	11.1	5	55.6
40~44	2	15.4	1	7.7	10	76.9
45~49	4	33.3	0	0.0	8	66.7
50~54	2	14.3	0	0.0	12	85.7
55~59	2	8.0	2	8.0	21	84.0
60~64	4	14.8	1	3.7	22	81.5
65~69	3	6.8	3	6.8	38	86.4
70~74	3	8.6	5	14.3	27	77.1
75~79	4	16.7	0	0.0	20	83.3
80~84	4	25.0	1	6.3	11	68.8
85~	-	-	-	-	-	-
全体	35	14.6	17	7.1	187	78.2

図17 健康区分判定〔平成24年度〕



年齢階級 (歳)	異常なし		要指導		要治療・要精密検査	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20~24	5	10.4	5	10.4	38	79.2
25~29	10	18.5	3	5.6	41	75.9
30~34	8	13.6	6	10.2	45	76.3
35~39	10	13.5	6	8.1	58	78.4
40~44	17	22.1	7	9.1	53	68.8
45~49	7	10.8	6	9.2	52	80.0
50~54	9	11.8	6	7.9	61	80.3
55~59	6	9.8	3	4.9	52	85.2
60~64	11	13.9	3	3.8	65	82.3
65~69	10	13.2	4	5.3	62	81.6
70~74	13	14.8	5	5.7	70	79.5
75~79	15	19.2	6	7.7	57	73.1
80~84	11	17.5	8	12.7	44	69.8
85~	2	40.0	0	0.0	3	60.0
全体	134	14.8	68	7.5	701	77.6

図18 要治療・要精密検査の内容の内訳



年齢階級 (歳)	平成24年度		平成28年度		令和4年度	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
むし歯	271	38.7	85	45.5	171	43.2
欠損歯あり	58	8.3	87	46.5	116	29.3
歯周病	389	55.5	118	63.1	288	72.7
その他	426	60.8	48	25.7	191	48.2
総数	701		187		396	

## (6) 保健所圏域ごとの比較

未処置歯，歯周疾患，要補綴歯を有する割合について，保健所圏域ごとに性別年齢で標準化した結果を表1および図19から21に示す。

未処置歯を有する者の割合は，大崎保健所圏域で1.46倍，要補綴歯を有する者の割合は，大崎保健所圏域で1.44倍となっている。

歯周疾患（PPD 4mm以上）を有する者の割合は，石巻保健所圏域で1.23倍となり，他の圏域よりも割合が高かった。

表1 未処置歯，歯周疾患，要補綴歯についての保有リスクの保健所圏域ごとの比較

主な歯科疾患 の有病割合	未処置歯あり			歯周疾患あり (PPD 4mm以上)			要補綴歯あり		
	粗割合 (%)	標準化後 (%)	(倍率)*	粗割合 (%)	標準化後 (%)	(倍率)*	粗割合 (%)	標準化後 (%)	(倍率)*
宮城県全体	37.0	37.0	1.00	63.2	63.2	1.00	31.4	31.4	1.00
仙台市	38.7	38.0	1.03	63.4	63.7	1.01	26.9	27.2	0.86
仙南保健所	30.6	30.3	0.82	55.3	56.2	0.89	28.2	29.6	0.94
塩釜保健所	40.7	39.9	1.08	66.1	65.2	1.03	23.7	22.1	0.70
岩沼支所	36.2	36.7	0.99	72.4	72.4	1.15	29.3	29.2	0.93
黒川支所	28.9	29.5	0.80	53.3	51.8	0.82	37.8	35.5	1.13
大崎保健所	52.1	53.9	1.46	60.4	58.7	0.93	45.8	45.3	1.44
石巻保健所	37.3	37.1	1.00	76.3	77.5	1.23	37.3	39.5	1.26
気仙沼保健所	27.8	28.4	0.77	50.0	52.1	0.82	27.8	27.5	0.88

※調査対象者全体の性別・年齢の分布に合わせて標準化した割合

\*宮城県全体を1としたときに何倍多い

図19 保健所圏域ごとの未処置歯保有者の割合

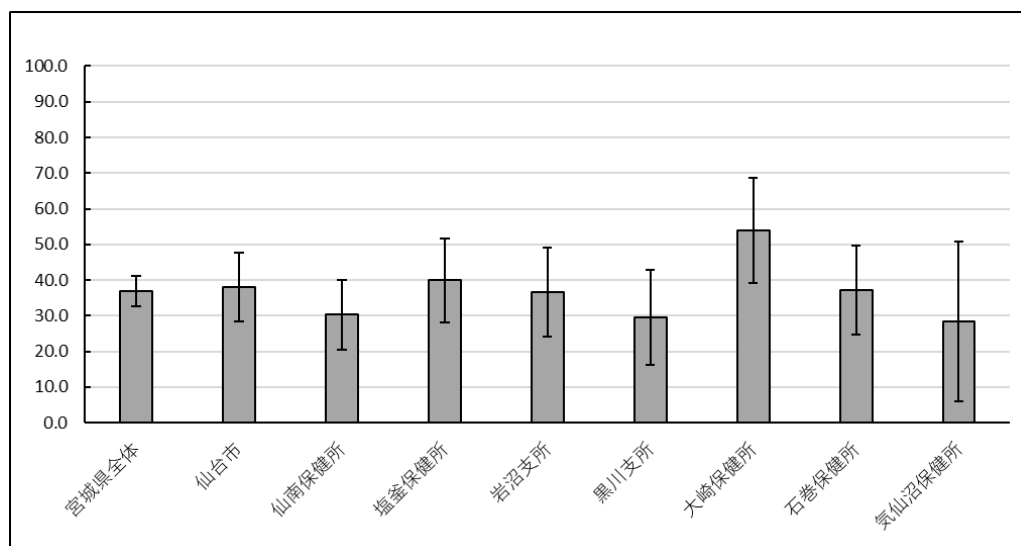




図 2 0 保健所圏域ごとの歯周疾患保有者（歯周ポケットが 4mm 以上の者）の割合

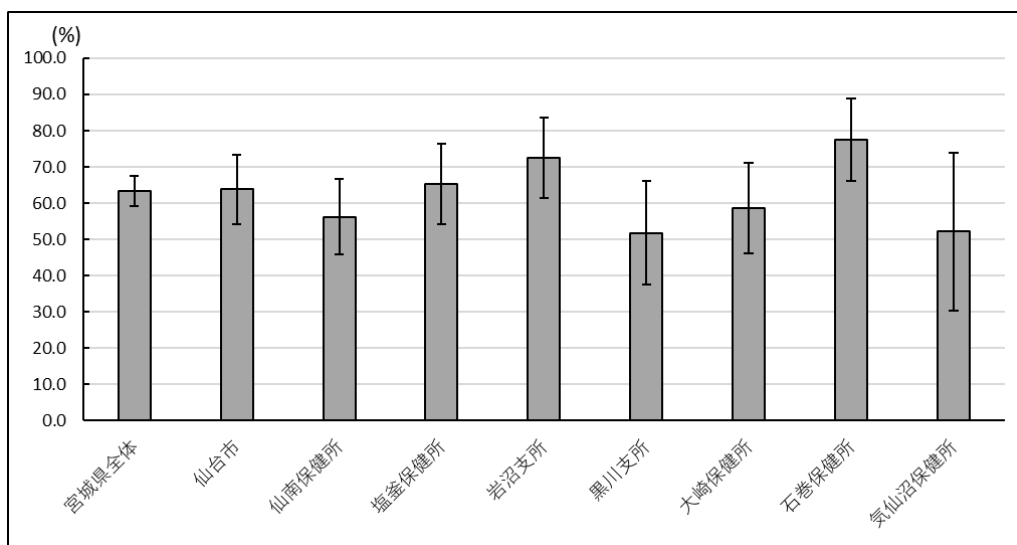
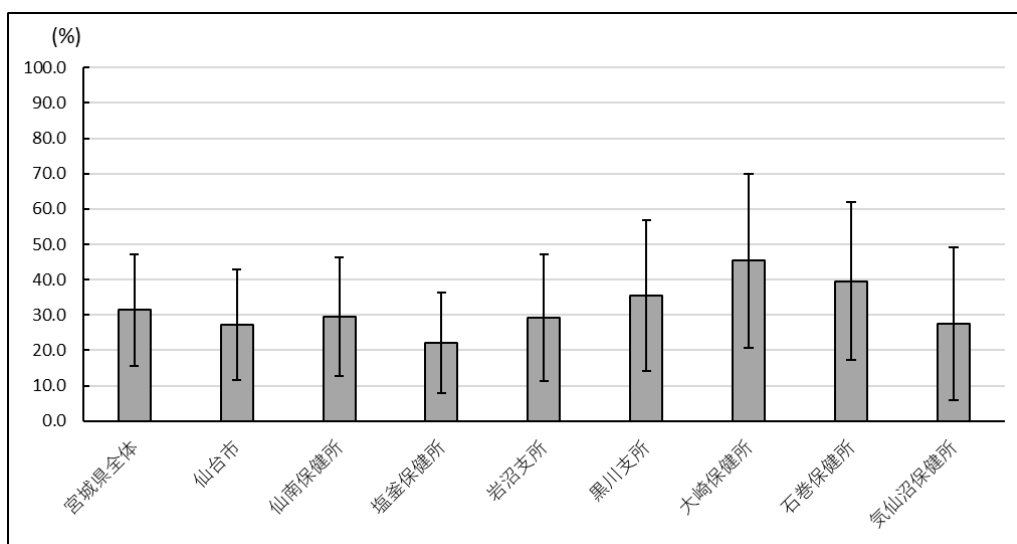


図 2 1 保健所圏域ごとの要補綴歯保有者の割合



(参考) クロス集計結果

各項目とのクロス集計の結果は以下のとおり

① 対象者の年齢分布

表2 対象者の年齢分布

	質問紙調査		歯科健診参加	
	(人)	(%)	(人)	(%)
全体	544	100.0	465	100.0
年齢(歳)				
20~39	129	23.7	95	20.4
40~59	167	30.7	143	30.8
60~	248	45.6	227	48.8

② 歯みがき頻度及びデンタルフロス・歯間ブラシの使用とう蝕及び歯周病との関連

歯みがき頻度が1日1回以下の者と比べて、2回以上行っている者では、DMFT及び歯周病の有病割合が少ない傾向にあった(表3)。

表3 歯みがき頻度とう蝕・歯周病との関連

	DMFT		歯周病(PPD4mm以上)			
	歯磨き回数		歯磨き回数			
	2回以上/日 (本)	1回以下/日 (本)	2回以上/日 (人)	1回以下/日 (%)	1回以下/日 (人)	1回以下/日 (%)
全体	16.5	18.3	237	62.4	55	66.3
年齢(歳)						
20~39	9.5	11.3	39	45.9	1	10.0
40~59	16.3	14.4	77	64.2	17	73.9
60~	19.9	21.5	121	69.1	37	74.0

③ フッ化物配合歯磨剤の使用とう蝕及び歯周病との関連について

フッ化物配合歯磨剤を使っている者ではDMFTが少ないことが示された。(表4)

表4 フッ化物配合歯磨剤の使用とう蝕及び歯周病

	DMFT		歯周病(PPD4mm以上)			
	フッ化物配合歯磨剤		フッ化物配合歯磨剤			
	使っている (本)	使っていない (本)	使っている (人)	使っていない (%)	使っていない (人)	使っていない (%)
全体	16.5	17.3	173	59.3	112	68.7
年齢(歳)						
20~39	9.5	10.1	25	39.1	14	46.7
40~59	16.1	16.1	48	57.8	44	75.9
60~	19.8	21.1	100	69.0	54	72.0

④ 砂糖（遊離糖類）の摂取とう蝕との関連について

砂糖，特に食品・飲料に添加されたショ糖や果糖・ブドウ糖などの遊離糖類の摂取は，う蝕の主要なリスクファクターの一つである。本調査においても，1日の甘味食品や加糖飲料の摂取頻度が0回の者と比べて，2回以上の人でDMFTが高くなっている（表5および表6）。

表5 甘味食品の摂取頻度とう蝕との関連

	DMFT		
	甘味食品の摂取頻度（1日あたり）		
	0回 (本)	1回 (本)	2回以上 (本)
全体	16.1	16.2	17.9
年齢（歳）			
20～39	12.7	8.1	11.3
40～59	13.0	17.0	15.7
60～	19.3	19.7	21.6

表6 加糖飲料の摂取頻度とう蝕との関連

	DMFT		
	加糖飲料の摂取頻度（1日あたり）		
	0回 (本)	1回 (本)	2回以上 (本)
全体	16.4	16.7	17.3
年齢（歳）			
20～39	9.0	9.0	12.2
40～59	14.6	17.4	16.0
60～	20.3	19.9	20.6

⑤ 喫煙と歯周病との関連について

喫煙は歯周病の主要なリスクファクターの一つである。本調査でも，喫煙者において非喫煙者よりも歯周病を有している者の割合が高いことが観察された。（表7）

表7 喫煙と歯周病との関連

	歯周病（PPD4mm以上）			
	喫煙			
	なし		あり	
	(人)	(%)	(人)	(%)
全体	253	62.0	38	71.7
年齢（歳）				
20～39	34	40.5	6	60.0
40～59	75	63.6	19	76.0
60～	144	69.9	13	72.2

⑥ 食べるときの症状とう蝕・歯周病との関連について（40歳以上）

「半年前と比べて堅いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物でむせることがある」、「食べるのが遅くなった」、「物が飲み込みにくくなった」といった症状を有する者では、現在歯数が少ない傾向にあった（表8～表11）。歯は咀嚼などの口腔機能において重要な器官であり、その喪失は口腔機能に多大な影響与える可能性がある。一方、「口の渇きが気になる」を有する者で、う蝕・歯周病・歯の喪失が多いという傾向は見られなかった（表12）。口腔乾燥は内服している薬剤に大きく影響されるため、歯の状態とは明らかな関連がみられなかった可能性がある。

表8 「半年前と比べて堅いものが食べにくくなった」とう蝕・歯周病・現在歯数との関連

	DMFT		歯周病（PPD4mm以上）				現在歯数	
	なし (本)	あり (本)	なし (人)	あり (%)	あり (人)	あり (%)	なし (本)	あり (本)
全体	17.8	21.1	192	69.8	61	64.9	25.3	19.3
年齢（歳）								
40～59	15.5	19.8	81	63.8	13	81.3	27.8	24.3
60～74	19.2	19.3	73	81.1	25	62.5	24.4	22.0
75～	20.6	23.5	38	65.5	23	60.5	21.5	14.5

表9 「お茶や汁物でむせることがある」とう蝕・歯周病・現在歯数との関連

	DMFT		歯周病（PPD4mm以上）				現在歯数	
	なし (本)	あり (本)	なし (人)	あり (%)	あり (人)	あり (%)	なし (本)	あり (本)
全体	18.4	19.7	208	68.7	45	68.2	24.2	22.0
年齢（歳）								
40～59	16.0	15.8	84	67.2	10	55.6	27.4	26.8
60～74	19.2	19.4	76	74.5	22	78.6	23.8	23.2
75～	21.3	23.7	48	63.2	13	65.0	19.4	16.2

表10 「食べるのが遅くなった」とう蝕・歯周病・現在歯数との関連

	DMFT		歯周病（PPD4mm以上）				現在歯数	
	なし (本)	あり (本)	なし (人)	あり (%)	あり (人)	あり (%)	なし (本)	あり (本)
全体	18.4	20.1	222	69.2	31	64.6	24.2	20.9
年齢（歳）								
40～59	16.0	16.4	85	64.4	9	81.8	27.4	27.0
60～74	19.4	17.8	89	76.7	9	64.3	23.8	22.4
75～	21.3	23.3	48	65.8	13	56.5	19.2	17.0

表 1 1 「物が飲み込みにくくなった」とう蝕・歯周病・現在歯数との関連

	DMFT		歯周病 (PPD4mm以上)				現在歯数	
	なし (本)	あり (本)	なし (人)	あり (%)	あり (人)	あり (%)	なし (本)	あり (本)
全体	18.6	19.5	236	68.8	17	65.4	23.9	22.6
年齢 (歳)								
40~59	15.8	18.2	89	66.9	5	50.0	27.4	27.1
60~74	19.2	19.2	89	74.2	9	90.0	23.8	22.2
75~	21.8	22.0	58	64.4	3	50.0	18.9	15.8

表 1 2 「口の渇きが気になる」とう蝕・歯周病・現在歯数との関連

	DMFT		歯周病 (PPD4mm以上)				現在歯数	
	なし (本)	あり (本)	なし (人)	あり (%)	あり (人)	あり (%)	なし (本)	あり (本)
全体	19.0	17.1	207	67.7	46	73.0	23.6	24.8
年齢 (歳)								
40~59	16.2	15.2	77	64.2	17	73.9	27.3	27.9
60~74	19.3	18.6	81	72.3	17	94.4	23.5	24.6
75~	22.9	17.9	49	66.2	12	54.6	17.8	21.9

⑦ フッ化物配合歯磨剤を併用した歯磨きとう蝕・現在歯数との関連について

フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきはう蝕の予防に効果的である。ブラッシングだけでもプラークはある程度取り除けるものの、咬合面の裂溝や隣接面など歯ブラシの毛先が届きにくい箇所があるため、ブラッシング単体でのう蝕予防は限定的となってしまう。

本調査結果でも、1日2回以上歯を磨いている者の中でみても、フッ化物配合歯磨剤を使用している者では、DMFTが少なく、現在歯数が多いという傾向が観察された(表13)。

表 1 3 フッ化物配合歯磨剤を併用した歯磨きとう蝕・現在歯数との関連

	DMFT				現在歯数			
	歯磨き頻度				歯磨き頻度			
	1回以下 F歯磨剤の使用 なし あり (本) (本)		2回以上 F歯磨剤の使用 なし あり (本) (本)		1回以下 F歯磨剤の使用 なし あり (本) (本)		2回以上 F歯磨剤の使用 なし あり (本) (本)	
全体	17.9	18.9	17.1	16.1	22.5	23.7	24.4	25.7
年齢 (歳)								
20~39	11.6	10.7	9.7	9.4	29.1	30.3	29.6	28.7
40~59	15.3	14.7	16.3	16.3	28.0	27.6	26.8	27.5
60~	21.9	21.3	20.8	19.4	16.6	21.5	20.3	22.9